

## 【黙示録 3 章 3 節～6 節】

### 主は、わずかな者たちとともに歩まれます

---

#### 黙示録 3:4

しかし、サルデイスには、わずかだが、その衣を汚さなかった者たちがいる。彼らは白い衣を着て、わたしとともに歩む。彼らがそれにふさわしい者だからである。

---

### 1. どのように受け、聞いたのか思い起こしなさいと言われます

前回は、黙示録 3 章 1 節と 2 節を学びました。今回は、その続きです。

#### 黙示録 3:1b

わたしはあなたの行いを知っている。あなたは生きているとは名ばかりで、実は死んでいる。

「生きているとは名ばかり」とは、かなり厳しいお言葉です。

自分たちや、周囲が「生きている」と思っていたとしても、その実は「死んでいる」ということがあるのです。

これは、私たちも深く心に留めなければなりません。

さて、そのようなサルデイスの教会に対して、主は言われます。

#### 黙示録 3:3

だから、どのように受け、聞いたのか思い起こし、それを守り、悔い改めなさい。目を覚まさないのなら、わたしは盗人のように来る。わたしがいつあなたのところに来るか、あなたは決して分らない。

サルデイスの教会には、まだ「望み」があります。イエス様は「どうすべきであるか」を示してくださいました。

まずは「どのように受け、聞いたのかを思い起こし、それを守り、悔い改めなさい」と言われます。

つまり、サルデイスの教会は「最初に聞いたこと、受けたこと」を忘れてしまって、その教えを守っていなかったということです。

なんとなく「エペソの教会」への叱責と似ているように思います。

エペソの教会は「はじめの愛から落ちた」と言われました。サルデイスの教会も「最初に聞いたこと」から落ちてしまったのでしょう。

確かに「聞いた」はずなのです。しかし、彼らは「それを守って」いませんでした。

彼らは「どのように受け、聞いた」のでしょうか。それは、もちろん、私たちが「受け、聞いた」ことと同じはずです。

彼らも、私たちも「福音」を聞いたのです。

しかし「福音」を「守って」いないとは、いったいどういうことでしょうか。

まず「福音」とは何かを今一度、思い返してみましようか。

### **Iコリント 15:1**

**兄弟たち。私があなたがたに宣べ伝えた福音を、改めて知らせます。あなたがたはその福音を受け入れ、その福音によって立っているのです。**

パウロは、コリントの人々に「福音を、改めて知らせます」と記しています。

まず福音とは「受け入れる」ものです。私たちは福音を受け入れたので「立つ」ことができます。

### **Iコリント 15:2**

**私がどのようなことばで福音を伝えたか、あなたがたがしっかりと覚えているなら、この福音によって救われます。そうでなければ、あなたがたが信じたことは無駄になってしまいます。**

パウロが伝えた福音を「しっかりと覚えているなら」、その福音によって「救われる」のです。しかし、覚えていないなら「信じたことは無駄」になります。

これは、恐ろしいですね。そして、サルデイスの教会に起こっていたのは、まさにこのことです。彼らは「しっかりと覚えて」いませんでした。福音を確かに聞いたけれど「覚えて」いなかったのです。

ですから、彼らの「信じたことは無駄」となりました。ゆえに彼らは「生きているとは名ばかり」と言われたのです。

さて、福音とは何でしょう？

### **Iコリント 15：3a**

**私があるがために最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。**

まず、福音とは「最も大切なこと」です。そして、それはパウロ自身も「受けた」ことです。その「最も大切なこと」とは、次のことです。

### **Iコリント 15：3b～5**

**キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと、また、ケファに現れ、それから十二弟子に現れたことです。**

「福音」とは、まず「御子イエスのこと」です。

イエス様は「私たちの罪のために死なれ、葬られ、三日目によみがえられ」ました。

「聖書に書いてあるとおりに」というのが重要です。パウロの言う聖書は「旧約聖書」のことです。つまり、これは、パウロが勝手に考え出した物語ではないということです。

これは、創世記のはじめから「記されていた」神のご計画でした。

イエス様は、蛇の頭を打ち砕くため、私たちを死の恐怖から救い出すために来られました。私たちの背きの罪のために十字架に架かり、死んで、葬られ、よみがえってくださいました。これは「聖書に記されているとおりに」に成されたのです。

私たちは、この「福音」を聖書に記されているとおりに「信じる」ことで救われるのです。

### **ガラテヤ 3：6**

**「アブラハムは神を信じた。それで、それが彼の義と認められた」とあるとおりで。**

信じることによって「義」と認められることは、あらかじめ「創世記」に記されていました。

### **ガラテヤ 4：22**

**しかし聖書は、すべてのものを罪の下に閉じ込めました。それは約束が、イエス・キリストに対する信仰によって、信じる人々に与えられるためでした。**

聖書は「イエス・キリストに対する信仰」をあらかじめ記していました。

### ローマ 10 : 9

**なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。**

私たちは「イエス・キリストに対する信仰によって」救われるのです。

これこそ、私たちが「受けて、聞いた」ことです。

そして、サルデイスの教会が「受けて、聞いた」ことでもあります。

世界中の聖徒が「受けて、聞いた」ことなのです。

そしてこれが「福音」なのです。パウロが言うところの「最も大切なこと」です。

サルデイスの教会は、この福音を「守って」いなかったと言われているのです。不思議な言い方だと思いませんか。

「福音」を守るとは、すなわち「福音によって生きる」ということです。

彼らは「福音によって生きていなかった」のです。彼らの信仰告白は「形式的なもの」となっていたのです。

ただ、福音を「知識として知っている」だけでは「信じたことは無駄」になります。

「信じる」とは、その通りに「生きる」ことでなくてはならないのです。

本当に「福音」をしっかりと信じたのならば「福音にふさわしい生き方」に導かれます。

信仰者はみな「福音にふさわしく生きる」ようにと召されているのです。

信仰の告白と生き方は「一つ」でなければなりません。

サルデイスの教会は「信仰告白」と「生き方」が分離していたのです。

ゆえに彼らは「生きているとは名ばかり」と呼ばれたのです。

福音にふさわしい生き方とは「主の再臨を待ち望む生き方」です

パウロは勧めています。

### ピリピ 1 : 27a

**ただキリストの福音にふさわしく生活しなさい。**

聖徒はみな「キリストの福音にふさわしく」生きるように言われています。「生活する」という語は「市民として」という意味を含めることができます。つまり「キリストの福音にふさわしい生き方」とは「天国の民として生きる」ということです。

同じピリピ書で、パウロはこう言っています。

### ピリピ 3 : 20

**しかし、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、私たちは待ち望んでいます。**

天国に国籍を持つ者としての自覚がありますか。

「イエスを主と告白」した者はみな「天に国籍」を持っているのです。私たちは「天国民」なのです。

天国民はみな「主イエス・キリストが救い主として来られるのを待ち望んで」います。

つまり、天国民は常に「天を仰いで」いるのです。

では、天国民でない人のことをパウロは何と呼んでいるでしょう。

### **ピリピ 3：18～19**

**というのは、私はたびたびあなたがたに言ってきたし、今も涙ながらに言うのですが、多くの人がキリストの十字架の敵として歩んでいるのです。その人たちの最後は滅びです。彼らは欲望を神とし、恥ずべきものを栄光として、地上のことだけを考える人たちです。**

たいへん厳しいようですが、天国民でなければ「十字架の敵」です。彼らは、決して「天を仰ぐ」ことはしません。彼らは「地上のことだけを考える者たち」です。

愛する兄弟姉妹。

前回、私たちは「サルディスの教会はプロテスタントの時代の教会を現わす」ということを学びました。

そのことを踏まえて、真剣に考えてみてください。

私たちの目は「どこを向いている」でしょう。

私たちは「地上のことだけを考え」ていないでしょうか。

日々、天を仰ぎ「そこから主イエス・キリストが救い主として来られる」ことを待ち望んでいるでしょうか。

「生きているのは名ばかり」という状態から脱出するために必要なことは「悔い改め」です。

### **黙示録 3：3a**

**だから、どのように受け、聞いたのか思い起こし、それを守り、悔い改めなさい。**

主は、サルディスの教会に「悔い改め」を命じておられます。

「悔い改め」とは、ただ「赦しを請う」ことではありません。それは「方向を転換すること」です。

「地上のことだけを考える生き方」から「天を仰ぎ主イエスを待ち望む生き方」へと思いを変換させることです。

サルディスの教会は早急に「悔い改める」必要がありました。

なぜなら、イエス様は続けてこう言われたからです。

### **黙示録 3 : 3b**

**目を覚まさないなら、わたしは盗人のように来る。わたしがいつあなたのところに来るか、あなたには決して分からない。**

主は「盗人のように来る」と警告されます。

「地上のことだけを考える人」にとって、主の再臨は「予期せぬ出来事」となります。どうか忘れないでください。

この手紙が「教会」に宛てて送られたのだということ。

信仰告白をし、洗礼を受け、教会に集っていた人々に対して送られた手紙なのです。

イエス様が「いつ」戻って来られるのかは分かりません。

ですから、私たちは「油断」してはならないのです。

## **2. 不注意と油断が招いた結果**

サルデイスの町については興味深い話があります。

サルデイスの人々は、とても険しい場所に城壁を建てていました。建てる力があったのです。また、それを建てるための努力も惜しみませんでした。彼らの自然の要害は「難攻不落」と呼ばれていました。

しかし、その「難攻不落」の城壁は、いとも簡単に「落ちた」のです。

その理由は「不注意」と「油断」でした。

ペルシャのキュロス王は、「サルデイスの難攻不落の城壁」への進入路を捜していました。しかし、あまりにも険しい場所に建てられていたので、なかなか進入路を発見できませんでした。

そのような時、サルデイスの城壁の見張りについていた兵士の一人が、城壁から自分の「かぶと」を落としてしまったのです。大事な頭を守る「かぶと」を戦いの最中に落とすなんて、とんだうっかり者です。

「かぶと」は、城壁の外に転がり落ちました。その兵士は、あわてて拾いに来て、そして「いとも簡単に」城壁に戻って行ったのです。つまり、城壁に通じる「隠し通路」のようなものがあったのです。

その「戻って行くところ」をキュロスの兵が見ていました。「隠し通路」は、難なく発見され、キュロス軍はいとも簡単に城壁を落とされたと言われています。サルデイスは兵士の「不注意」で陥落したと言えます。

実は、サルデイスは、もう一度陥落しています。

紀元前 216 年ごろ、アンティオコスの軍に攻め落とされました。

たった 5 名で忍び込んできた兵たちが、城壁の門を開いてアンティオコス軍を招き入れたのです。サルデイスの軍は彼らの侵入にまったく気がつきませんでした。

なぜなら、サルデイスの軍は、自然の要害にある城壁に安心しきっていて「見張りを置いていなかった」からです。見張りはいたが「居眠りをしていた」という説もあります。いずれにしても「油断」していたことに間違いはありません。

サルデイスの城壁は「不注意」と「油断」で陥落しました。

私は、サルデイスの教会にも「不注意」と「油断」が満ちていたのではないかと想像します。

そして、私たちのうちにも「不注意」と「油断」が蔓延しているように思えます。

私たち「プロテスタントの教会」は、正しい教理に立っていることに慢心しているかもしれないと感じます。

確かに、私たちは「偶像を拜む」ことはしません。「イエス様の御名以外に救いはない」と宣言しています。聖書をそのまま信じています。

しかし、本当の意味において「福音を生きている」でしょうか。

私たちは「救いのかぶと」を決して落としてはなりません。それは死守せねばならないものです。

私たちは「見張り」を怠っていないでしょうか。

主は「目を覚ましていなさい」と言われたのです。

「目を覚ます」という語は「油断せず注意している」という意味もあります。

私たちは「油断」してはならないのです。

### **I テサロニケ 5:8**

**しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛の胸当てを着け、救いの望みというかぶとをかぶり、身を慎んでいましょう。**

主を待ち望むことに飽きてはなりません。私たちは「天国人」として、日々「天を仰いで」生きるのです。

主は必ず来られます。

天に召されるか携挙されるか、どちらが早いかわかりませんが、私たちは必ず、主イエスにお会いします。主を待ち望みつつ生きる者が「生きているのは名ばかり」と呼ばれるようなことはないとは私は信じます。

「地上のことだけを考える者」ではなく「天を仰いで主イエスを待ち望む者」として生きましょう。信仰と愛の胸当てを着け、救いの望みというかぶとをかぶり、身を慎んでいましょう。私たちは「目を覚まし」ましょう。「油断せず」生きましょう。

### 3. わずかだが、衣を汚さなかった者たちがいる

#### 黙示録 3: 4

しかし、サルデイスには、わずかだが、その衣を汚さなかった者たちがいる。彼らは白い衣を着て、わたしとともに歩む。彼がそれにふさわしい者たちだからである。

「サルデイスには、わずかだが、その衣を汚さなかった者たちがいる」とイエス様は言われます。「わずか」と言われることが気にかかりますね。大多数の人が「衣を汚していた」ということです。

サルデイスの教会は、おそらく「妥協」した歩みが日常的であったのでしょう。本当に「新しく生まれた聖徒」は、みな「新しい人」を着ています。

#### エペソ 4: 22~24

その教えとは、あなたがたが以前の生活について言えば、人を欺く情欲によって腐敗していく古い人を、あなたがたが脱ぎ捨てること、また、あなたがたが霊と心において新しくされ続け、真理に基づく義と聖をもって、神にかたどり造られた新しい人を着ることでした。

私たちは「霊と心において新しくされ続け」なければなりません。「少しぐらいの汚れは大丈夫」と見過ごしてはならないのです。汚れは、毎日、洗い落とさねばなりません。

しかし、サルデイスの教会の聖徒たちは「聖」とされることを「重要だ」とは思わなかったのでしょうか。

主のみこころは、私たちが「聖なる者」とされることです。

#### 1 テサロニケ 4: 3a

神のみこころは、あなたがたが聖なる者となることです。

私は「律法主義」と呼ばれるのを恐れるあまり「聖なる歩み」について強調しない傾向にあるように思います。「行い」によらない「救い」を強調するあまり「罪」に対して「寛容」になる傾向があるように思います。これは、やはり反省すべき点であると思います。

愛する兄弟姉妹。

確かに、主は、罪を赦してくださいます。イエス様の十字架により「過去の罪も、現在の罪も、未来の罪さえも贖われた」というのは真理です。

主の恵みは天にまで及びます。主の永遠の御手は下にあります。

今、キリスト・イエスにある者は、決して罪に定められることはありません。

素晴らしいですね。これは、真理です。私たちは罪人ではなく「聖徒」です。

しかし、だからこそ「聖なる者」でなければならないのです。

### **I ペテロ 1:14~15**

**従順な子どもとなり、以前、無知であったときの欲望に従わず、むしろ、あなたがたを召された聖なる方に倣い、あなたがた自身、生活のすべてにおいて聖なる者となりなさい。**

「生活のすべてにおいて」とペテロは言います。

主は、私たちの「生活のすべて」に関心を持っておられます。教会に座っているときの「お行儀のよい私」だけではなく、家や職場での「私」にも興味を持っておられます。

主は、私たちが「生活のすべてにおいて聖なる者」であるようにと望んでおられるのです。

私たちは「従順な子ども」となりましょう。そして「聖められること」を追い求めましょう。

### **ヘブル 12:14**

**すべての人との平和を追い求め、また、聖さを追い求めなさい。聖さがなければ、だれも主を見ることはできません。**

サルディスの教会において「聖さ」を追い求めた人は「わずか」であったのです。

大多数の「名ばかりの聖徒たち」は「衣を汚す歩み方」をしていました。しかし、彼らは自分たちが「名ばかりである」とは思っていなかったでしょう。

立派な教会に通う「わずか」な聖徒だけが「衣を汚さなかった」のです。そして、その「わずか」な聖徒だけが「主を見る」ことができるのです。

彼らは「わたしとともに歩む」とイエス様は言われます。サルディスの「わずかな者たち」は、主イエスと「ともに歩いていた」のです。

さあ、もう周囲を見るのは終わりにしましょう。

大切なのは「私の衣は汚れていないか」ということです。

大切なのは「私は、主イエスと歩いているか」ということです。

「わずかな者」でもいいではありませんか。周囲と違って恐れることはありません。

### **ルカ 12:32**

**小さな群れよ、恐れることはありません。あなたがたの父は、喜んであなたがたに御国を与えてくださるのです。**

小さな群れよ、わずかな者たちよ、恐れることはありません。

天の御国は「小さな群れ」に与えられます。

「わずかな者」たち、主はあなたとともにおられます。

愛する兄弟姉妹。

私たちは「聖なる」ことを求めましょう。「聖さ」を追い求めましょう。

イエス様と一緒に歩むことを切に切に求めましょう。

## 4. 勝利を得る者の「名」が言い表されます

**黙示録 3:5**

**勝利を得る者は、このように白い衣を着せられる。またわたしは、その者の名をいのちの書から決して消しはしない。わたしはその名を、わたしの父の御前と御使いたちの前で言い表す。**

「わずかな者たち」に与えられる素晴らしい未来を見てください。彼らは永遠に「主のもの」です。彼らの名前は「天の御国」において「言い表される」のです。

あなたの名前は「いのちの書」に記されているのです。

御父は、それを受け入れられます。御使いは、あなたの名が呼ばれるのを喜んで見えています。イエス様が、あなたの名前を高らかに宣言されます。そのような日が必ず来るのです。

**ゼパニヤ 3:17**

**あなたの神、主は、あなたのただ中であって救いの勇士だ。主はあなたのことを大いに喜び、その愛によって安らぎを与え、高らかに歌ってあなたのことを喜ばれる。**

主が「あなたを喜ばれる」のだということを忘れないでください。

主は、今も、そして永遠の先も「あなたのただ中であって救いの勇士」です。

今も、永遠の先も「ともに歩く方」です。

覚えてください。

「今」ともに歩かないなら、永遠の先をともに歩くことはできません。「今」は「永遠」につながっています。決して「バラバラ」に存在しているのではないのです。

「生きているとは名ばかり」であるならば「いのちの書に名前」があるかは怪しいところです。

私たちは、この地上を生きされている間、「キリストの福音にふさわしい生活」をしましょう。

見えない方を「見るように」忍び通し、信仰を堅く守って生きましょう。

「本当に生きた教会」として、衣を汚さず生きましょう。

天国人として、天を仰ぎ「主イエスの来られること」を待ち望みつつ生きましょう。

主は「わずかな者」とともに歩いておられます。

**マタイ 28 : 20b**

**見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがとともにいます。**

祝福を祈ります。